

雪氷写真館⑤ 南極半島ジェームズ・ロス島における氷河湖決壊／
Glacier lake outbursts on James Ross Island, Antarctic
Peninsula



写真 1. 氷河湖 A 決壊部



写真 2. 氷河湖 B 決壊後の湖盆跡 左側に決壊部



写真 3. モレーン堰き止め型氷河湖

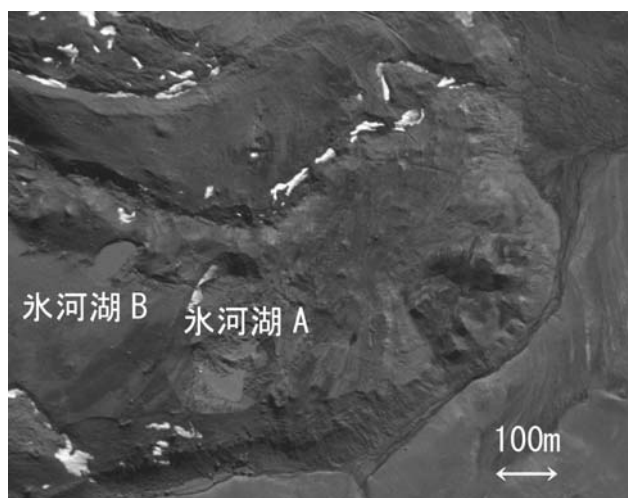


写真 4. Lachman 岩石被覆氷河上の氷河湖

南極半島ジェームズ・ロス島における氷河湖決壊

南極半島地域では、近年急速な温暖化が進んでおり、氷河の後退や棚氷の崩壊が報告されている。2005 年 2 月に半島東部のジェームズ・ロス島（南緯 63°53′，西経 57°48′）を訪れた際に、Lachman 岩石被覆氷河上（Strelin *et al.*, 2006）の右岸側の氷河湖 A（写真 4）が決壊していた（写真 1）。この湖は 1980 年以前から形成されていたが、近年急速に湖盆の面積を拡大していた。決壊後の凹地の大きさは、約 230×180 m であった。2004 年 3 月には湖が存在していたので、この湖は 2004–2005 年の夏に決壊したと考えられる。同じ時期に、この上流に数年前形成された氷河湖 B も決壊した（写真 2, 4）。ともに決壊跡には幅が狭く深いガリー（gully）が形成されており、湖水のオーバーフローが決壊の原因であると考えられる。ジェームズ・ロス島には、多くの氷河湖が分布し、モレーン堰き止め湖も存在する（写真 3）。今後も温暖化の傾向が持続すると、氷河湖決壊は多発するであろう。

曽根敏雄（北海道大学低温科学研究所）

福井幸太郎（国立極地研究所・学振）

参考文献

Strelin, J., Sone, T., Mori, J., Torielli, C. and Nakamura, T., 2006: New data related to Holocene landform development and climatic change from James Ross Island, Antarctic Peninsula. *Antarctica: Contributions to global earth sciences*, ed. by Fütterer, DK., Damakske, D., Kleinschmidt, G., Miller, H. and Tessensohn, F., Springer-Verlag, Berlin Heidelberg New York, pp 455–460.